

平成27年7月7日から平成28年2月10日まで実施された「第3回魅力発見！厚真の四季フォトコンテスト」。皆さんが厚真の魅力だと感じるベストショットを応募したところ、計48点の応募がありました。

応募作品の審査は3月2日、大岡好住さん（Gスタジオ大岡）、西尾茂さん（写真同好会）、木戸知二（役場産業経済課参事・厚真町観光協会事務局長）、渡辺路子さん（ロッキングラフィカ）、中井徹（役場広報担当主幹）の5名により行われ、募集テーマである「厚真町の魅力が表現されている写真」をはじめ、主題性・表現性・瞬間性・独創性など総合的に評価を行い、入賞作品が決定しました。

入賞作品等は、総合福祉センターで4月11日（月）まで展示しています。また、大賞・入選作品は、4月12日（火）から2カ月程度、まちなか交流館「しゃべーる」に展示します。なお、作品の一部は町のPR用として、今後、ホームページや町を紹介する媒体等で使用される予定です。

入賞作品(敬称略)

最優秀賞



山内 佳子（札幌市）

たくさんのご応募
ありがとう
ございました！



優秀賞（3作品）



西村 公孝（苫小牧市）

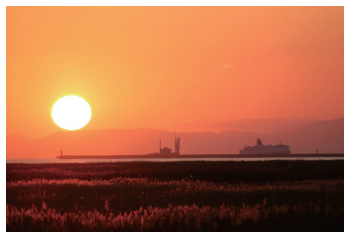


桑原 吉行（札幌市）



金子 道雄（苫小牧市）

入選（5作品）



浅野 真（厚真町）



吉村 剛（千歳市）



田中 憲弘（苫小牧市）



吉村 登美子（千歳市）



山内 佳子（札幌市）

ぼうさい

防災

⑬「じぶんごと」のスイッチを入れよう

新年度に入り、入学・進学、就職・転職など、人生の節目を迎える方が多いと思います。学生の方は学年が上がり、上級生としての自覚が芽生えている時期かもしれません。そんなときに意識することをおすすめするのが「じぶんごと」のスイッチです。

たとえば、小さな子どもは、保護者の方々がすべての面倒を見てあげるといいます。そこから徐々に、自分でできることを増やしていき、それが自立へとつながっていきます。周りに依存している行動や決断を、「これは『じぶん』がすることなんだ」、「これをするのは『じぶん』のためなんだ」、「これをしないと『じぶん』が困るんだ」など、「じぶんごと」（我がこと）の領域を増やしていく節目になるのが、新年度であるとも言えるでしょう。

防災の基本、「命を守ること」も、まずは自分から。「じぶんごと」として、命を守り、人を助ける視点を持つことが、防災の第一歩です。年齢に関係なく、生活の中で「じぶんごと」のスイッチを意識し、その中に災害に関することを含めるようにすると、防災の取り組みをしやすくなると思います。

このコラムも2年目に入りました。引き続き、生活の中の防災に関する情報をお届けしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

■プロフィール

定池祐季（さだいけ・ゆき）

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター（CIDIR）特任助教。

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学・防災教育。北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。



今月の主な内容

☒防災コラム・人口・世帯数 … 2

☒第3回魅力発見！

厚真の四季フォトコンテスト結果発表 … 3

☒平成28年第1回定例町議会 … 4～6

☒町職員の人事異動 … 7

☒繊維(古着・古布)リサイクルが変わります … 8

☒平成26年度温室効果ガス排出量実績の

公表について … 9

☒平成28年度厚真町燃やせるごみ用指定ごみ袋

支給事業のお知らせ … 10

☒厚高インフォメーション … 10

☒こぶしの湯あつま「こどもの日感謝祭」開催 … 11

☒まちの話題 … 12～15

☒みんなの広場 … 16～17

☒健康情報・ほけんの掲示板 … 18～19

☒情報ひろば … 20～21

■今月の表紙

3月26日、こども園つみき(宇佐美修一園長)で卒園式が行われ、23人の園児が卒園しました。

卒園証書授与では、担任の先生から一人ひとりにメッセージが送られたあと、園児が小学校生活に向けての抱負を述べ、園長先生から卒園証書を受け取っていました。



2016(平成28)年4月

NO. 764

3月31日現在の人口

4,666人(前月比－25)

男 2,283人／女 2,383人

世帯数 2,118(前月比－4)